

平成30年度 第2回白石町協働による地域づくり検討委員会 議事録

- 開催日時:平成30年7月10日(火)午後7時～午後9時
- 開催場所:白石町役場3階 大会議室
- 出席委員:五十嵐委員長、森副委員長、草野委員、片渕委員、川崎委員、上野委員、志田委員、内野委員、吉田委員、溝口委員、岩石委員、島ノ江委員、片渕委員、江口委員、前田委員、丸田委員、原崎委員、木下委員、林委員、山下委員
- 事務局:松尾総務課長、井崎企画財政課長、千布生涯学習課長、土井白石公民館係長、森有明公民館係長、坂本白石創生推進専門監、吉村企画財政課長補佐、筒井白石創生推進係長、柴田白石創生推進係主任、藤井白石創生推進係主事

《 議 事 録 》

午後7時 開会

1. 開会

2. 委員長あいさつ

○委員長

どうも皆さんこんばんは。先週大雨がありまして、白石は幸いにも大きな被害は無かったとお伺いしました。全国的には既に130名の方が亡くなられておられるということで、未だに行方不明者も数多くいらっしゃる。九州北部大水害からちょうど1年で、先週の金曜日、大きな大雨で水害がございました。色んなニュースを見ていると、今日のワークショップにも関係しますけれども、岡山県の倉敷市でかなりの広い範囲が冠水をした水害が報道されています。今日の朝日新聞で、あの地域では、すでにハザードマップが完成していて、そのハザードマップの浸水地域と今回の浸水地域が、ほぼ完全に一致していると。だからハザードマップ上は浸水が起こり得るということが出来上がってる訳ですね。専門家が知恵を出して周到に作ったハザードマップです。また、報道によると、行政はハザードマップをあの地区全戸に配布済みであると。しかし、住民の何か声を記者が拾った記事によると、ハザードマップなんかあるのは知らなかった。見たこともないというような住民がおられる。ハザードマップのような暮らしの安全安心に関わるような仕組みは大事なことなんですけれども、僕が思うには、そのハザードマップを行政と専門家だけが作ってしまった。つまりハザードマップ作りの段階でどれだけの住民が参加していたのか。住民が参加する形で、みんなでハザードマップ作りをするような、そういうプロセスがちゃんと取られていれば、もう少し情報は共有されていたのではないかな、そんなことを考えます。つまり色んな計画作りを行政はやっていく訳ですけども、その計画作りの段階から多く

の住民が参加していくこと、これもやはり協働のまちづくりの私は基本的なあり方だろうと思っています。暮らしの安全安心、福祉、地域振興、色んな課題を地域は抱えている訳ですけども、今この委員会で取り組んでいる協働のまちづくりというのは、まさにその計画づくりから多くの住民を巻き込んでいかなければいけない、従って時間が掛かる。当面はこの委員会でそういったことを検討していく訳ですけども、それぞれの委員さんは、それぞれの団体のほうに、可能な限りこの委員会で話し合ったことを持ち帰っていただいて、多くの住民が参加するような、参加できるような仕組みを作っていくことが大事だろうと思っています。その参加の仕組みの方法として、一番敷居が低いのが、今日、皆さんとやるワークショップです。住民誰でも気楽に参加できて自由に発言できるような場所・場、これがワークショップというものです。このワークショップを皆で時間掛かって大変なんですけれども、面倒臭いんですけれども、面倒臭がらずに楽しみながらワークショップを繰り返して行って、多くの住民を巻き込むような、そういった計画作り、それを目指したい、そういうようなことを、災害報道を通じて感じた次第でございます。今日は2回目で、ワークショップで、協働の地域づくりとは一体どういうことなのかということを、少しでも委員さんの間で共有できればいいかなと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

どうもありがとうございました。本日の委員会につきましては、概ね1時間30分程度を予定いたしておりますので、最後までよろしく願いしたいと思っております。それでは3番目の協議事項に入りたいと思っております。ここから先につきましては委員長に会議の議長をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

3. 協議事項

○委員長

はい、それでは本日の協議事項の1番目です。前回、第1回の検討委員会の振り返りでございます。それでは前回の振り返りにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 「第1回検討委員会の振り返り」説明【資料3・4】

それでは私の方から第1回の振り返りということで、簡単に資料3、前回資料の追加分と、資料4の議事録について説明をさせていただきます。まずは資料3をご覧ください。色刷りの分ですね。資料3は前回の資料3のうち、人口に関する部分の追加資料となります。町全体と旧町単位で示していたものに、小学校区単位のデータを追加しました。6ページをご覧ください。白石町人口の年齢3区分別の推移の小学校区別のデータを、13ページまでお示ししております。詳細な説明はいたしませんけれども、各校区青の年少人口、赤の生産年齢人口、緑の老年人口いずれも減少するというデータになっております。18ページをご覧ください。年齢3区分の割合の、小学校区分別データを25ページまでお示ししております。これも詳細な説明は省きますけど、人口2万人を切る2035年、平成47年を基準に見てみますと、白石六角小学校区を除く、6つの校区で高齢化率のピークを迎えるという予想になっております。参考までに申しますと北明小学校区が41%、須古小学校区

が40%。そしてピークを迎えていない白石小学校区につきましては、2040年に39%、六角小学校区は2050年に37%という予想になっております。そして年少人口につきましては、全ての校区が12%から13%となっております。最後の26ページ、世帯数の推計につきましては、町全体で推計をしているために、校区別でのデータはありません。続きまして資料4をご覧ください。第1回検討委員会の議事録です。一応ホームページに掲載する形にしてお示ししています。第1回の議事録は、1の開会から5の町担当職員の紹介までの部分は省略し、6の白石町協働による地域づくり検討委員会設置要綱及びその役割についての部分から掲載する予定です。内容については後立って確認いただき、修正が必要な場合は今週中に事務局までご連絡ください。説明については以上です。

○委員長

はい、ありがとうございます。前回の振り返りということで、追加の資料、統計データで、小学校区ごとの人口の年代別割合、そのデータの追加をしていただきました。それと前回の議事録は、ご一読の上、事務局のほうに何か問題がありましたらお知らせを願いたいと思います。人口統計よろしいですか。概ね現状は小学校区ごとで30%強の高齢化率ということになります。それが時代の進行とともに40%近くまで向かっていくだろう、ということですよ。高齢化率30%というのは、佐賀県の中でいえばそんなに深刻な状況ではないと私踏んでますけれども、問題はこの30%の中身です。例えば、独居、一人暮らしの高齢者が増えるだとか、やがて独居になり得る二人世帯、夫婦二人だけの世帯の独居が増えていく。或いは息子さんあたりがなかなか結婚できずに、お父さんと息子さんの二人暮らしというような世帯も、実はあのあちこちで増えてございます。その3割30%という数字を楽観視せず、その中身が非常に問題になるということです。尚且つ、近い将来それが35%、40%に増えていく。人口全体は減っていきますので、その割合が増えた高齢者をその下の世代の人たちが支えていかなければいけない、そういうことをこの数字からは是非とも想像していただきたい、そういう意味での統計データの追加でございます。何かご質問ご意見ございますでしょうか。また、事務局のほうに、こういうデータが欲しいという要望も出してください。例えば先ほど言ったように高齢者で、独居世帯がどれくらいいるかとか、夫婦だけの世帯がどれくらいの割合を占めるだとか、これは国勢調査等を使えば出てくると思うんですね。急ぎませんので、そういうデータもあれば是非出していただきたいということです。それでは最初の協議事項の前回の振り返りにつきましてはご承認をいただいたものという形で進めさせていただきたいと思います。

続きまして、2番目の協議事項といたしますか、今日は、ワークショップによる勉強会ということで、これからワークショップを始めさせていただきたいと思います。

7時15分 ワークショップスタート

同様の団体から選出の委員が重ならないように5～6人の班をつくり着席済み

*自己紹介(事故紹介)

*地域の安全・安心と協働について

- ・大雨特別警報発令時、自身が考えたこと・行動したことについて付箋に記入し模造紙に貼り付ける
- ・近隣住民に対する考え・行動のあり方について、災害時における協働(助け合い・支え合い・協力)の意味・課題などをまとめる

*各班発表

1班 (委員4人・職員1人 計5人)

- ・情報がありすぎて、共同感が薄れている
- ・災害の前例がないため、危機感もなく、特に近隣住民のことはあまり考えなかった

2班 (委員3人・職員3人 計6人)

- ・地域内で防災勉強会が必要
- ・各団体の連携が自主的にできるようになることが必要

3班 (委員4人・職員2人 計6人)

- ・警報発令後も自分の周りのことを考えるだけで行動には達していないのが現状
- ・協働づくりの方向性、意識作りをしていかなければいけない

4班 (委員4人・職員2人 計6人)

- ・災害に対する防災意識や危機感が低い
- ・危機感防災意識を持って行動することが必要

5班 (委員4人・職員2人 計6人)

- ・的確な情報を誰がどのように少しでも多くの人に伝えるかが課題

○委員長

はい、ありがとうございます。私の事前のストーリーにぴったり合うまとめ方をしたのが3班ということになります。私もつまりこういうことだったんです。皆色んなことを考える、しかし実際にそれが行動としてどれほど結びついたのか、その経験を踏まえた上で、これから安全な地域づくりをするために、どういう行動をしていくのか、どういう助け合いをしていかなければいけないのか、それをしっかりと皆で作っていく。この委員会の安全安心に関する協働は、そういったことが重要なテーマになっていきます。いいですか。はい。3班の人が上手いことまとめてくれたので、僕のこれ以上のまとめはもういたしません。ちょっと予定した時間をかなりオーバーしてしまいました。

以上でございます。事務局伝達事項ありますか。

4. その他

5. 閉会

○事務局

委員長どうもありがとうございました。委員の皆さんも本当にありがとうございました。

次回、第3回の委員会についてなんですけど、第1回的时候に、視察研修をさせていただきたいということをお知らせをしていたと思うんですけど、視察先の事情によりまして、視察研修については10月頃予定をさせていただいて、次回については現在町民アンケートを2,000名にアンケートをしていただく準備をしておりますので、アンケートをとってその町民アンケートの分析結果などの報告を行いたいと考えております。次回の第3回の日程については、後もってまたご連絡をさせていただきます。非常にお忙しい方々ばかりだと思いますけれども、時間帯についてはまた、本日より同じように7時ぐらいからという形でさせていただきたいと思います。

全体的に何か、皆様方からお尋ねとかご質問とかございませんでしょうか。本日は本当にお忙しい中、長時間に渡ってご協議いただきましてありがとうございます。これを持ちまして、第2回の白石町協働による地域づくり検討委員会を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。お帰りの際は気をつけてお帰りください。

午後9時 閉会